

①通いの場に関するもの

	項目1	項目2		地域課題	対策・アイデア	意見・コメント
①	高齢者のニーズ	活動情報 仲間	3	【居場所】 通いの場(サロン等)情報弱者 家以外の居場所がない 仲間作りの機会	フラット立ち寄れる場になるよう、認知症診断プログラムを設置したりサロンの活動がわかりにくい。紹介する支援者側が見ても案内しにくいものだったため、担当圏域のサロンの活動内容を分かりやすくまとめチラシを作成。(サロン運営側より、市にやると言われ始めたが、集客等その後の支援がないとの声を聞いた。) さくら荘やさかえ荘など既存の施設を活用することが望ましいと考える。喫茶スペースを作る。入浴施設の再開。 子供会・町内会・保育園・大学等と連携し、多世代で交流ができるイベントの企画。	外に出ること、人とのかかわりが面倒と思っている人が一人でフラットと気軽に立ち寄れる場所がある とよい。  タブレットの設置
	社会資源の課題		22	通いの場	・地域で歩いていける近くの通いの場を作り出す。 ・特に男性が立ち寄れる通いの場の創出。 ・いつ行っても誰かがいて対応してくれる居心地の良い場所(例えば、以前あったバレの2階の催し場、図書館、役所、ヨシズヤ、集まりやすい傾向) ・閉じこもり予防のため、外出して参加して交流してもらう。以前、いきいき健康クラブがあり、血圧測定行い、弁当提供したこともあったが、今はない。多くの参加者が来られた。企業のコラボも必要。	
	社会資源の課題	通所サービス	23	歩いて行ける通いの場、運動教室が少ない	おれんじスペースの中で可能性のある数か所ピックアップしてそこに講師やボランティアを派遣し、通いの場、運動教室等を開いてみてはどうか。 マジックやバントマイムのボランティア等を探して、おれんじスペースなりサロン等でも実演してもらえたら活性化しそうだが・・・ また、サロンの活性化対策として例えば回想法などを取り入れたり(男性も参加さえすれば親しい友人ができそうに思います)、各団体が希望するサロンに出張してはどうか。	
	社会資源の課題	介護	24	歩いて行ける通いの場、運動教室が少ない	・各自治会の公会堂や集会所での市民主体の趣味活動を増やす。各自治会での話し合いの場を持つ ・お寺が通いの場になるような働きかけ ・児童館などでの体操教室など	おれんじスペースの目標を100件とすればかなりのボリュームになりすごい力を発揮する。スペースが広いところをピックアップ・地域の大事な場にならないか
	社会資源の課題	予防	30	身近に体操する場所がない	医療従事者による出前講座の実施(老人会や地域のサロン等に出向き、専門職による住民向け講座の実施[ケアマネによる介護保険制度の説明、PTによる介護予防体操の実施等])	

②周知方法のレベルアップに関するもの

項目1	項目2	地域課題	対策・アイデア	意見・コメント
高齢者のニーズ	活動	1 サロンの活動内容が分かりづらい 新規利用者が参加しづらい・少ない。 (関連項目：一人でサロン等への参加がしにくい男性が参加できるサロンが少ない)	参加者の実際の声が入ったパンフレットなどを作成してはどうか。 動画などを撮影し活動風景が見られるようにしてはどうか。 男性は照れくさくて、自分から行きたいと言うことは無いのでは。「寂しくて行く」みたいに思われるのが嫌な人もいられる。→仲間づくりを主目的としない、一人でも参加しやすいサロン(ジムのような雰囲気?)を仲間内と会話をするサロンと併設させて提供して、徐々に無理せず仲間づくりを促す形はどうか。 利用したことが無い人に、どんなサロンなら参加してみたいかニーズ調査は行っているのか。中には今までの趣味や特技を活かして教える側にまわりたいけどやれるところが無いと考えている人もいるのでは。	ニーズの調査・ニーズとマッチングできているか。仲間づくりを主体目的にしない参加しやすいサロンがあるとよいのではないか。 ニーズに有効な形にする。
高齢者のニーズ	活動	2 サロンの活動内容が分かりづらい	サロンや体操クラブの情報をSCや包括が収集し、紹介パンフレット作成する。 レインボーネットの「サロン」「体操クラブ」の情報を更新し、スマホやタブレット利用できる高齢者等に情報提供する。	文字だけでなく画像などわかりやすいものを。活動がわかるように。
高齢者のニーズ	情報	4 情報収集伝達方法	スマホを所持している人は、ラインで北名古屋市と友達になるように設定してあげることが可能なら、情報が通知されてくるので見るのではないかな。	スマホのサポート体制
域住民課題・地域	移動手段	18 行きたい場所や時間に、きたバスが運行していない	・通院に特化したきたバスガイドを作成する(クリニック、歯科) ・きたバスで行ける場所ガイド(美容院、床屋編・喫茶店) ※自分の行動をバスの時間に合わせる意識改革	手間がかかるがガイド系・情報周知の仕方・パンフレットの作成
住民課題・地域の	新型コロナウイルス関連	19 ★課題7 外出を控える傾向になっている	慢性疾患をかかえる高齢者は通院はできていると思うので通院の待ち時間等に、コーディネーターやボランティアサポーターが地域のサロンへの入会調整等体操教室の案内 具体的に進めていく。(ポスターやチラシの配布など)	
域住民課題・地域	制度	20 高齢者に介護予防や介護保険(総合事業を含む)の知識がない	介護保険1号被保険者になったら、「介護保険を受けている(介護認定されている)」と勘違いされている方もまだまだ見受けられる。医療機関で、後期高齢者特定健診の受診・結果時に介護保険の申請のための簡易な案内(A4)などでお知らせすることが可能ではないか。	
社会課題・資源	医療	26 定期的に歯科受診をしていない。	オーラルフレイルは全身のフレイルの引き金となります。2月の協議会で述べましたが、後期高齢者医療健康診査の質問票の項目4『半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか』、項目5『お茶や汁物等でむせることがありますか』のいずれかにハイと回答した方には歯科の受診を進めてほしい。	歯科医師会の取り組み紹介をしてほしい
すべて	すべて	42 他機関(人)との連携・情報交換連絡会(ケアマネ会、通所、訪問看護等)と横のつながりが少ない。	レインボーネット(電子@連絡帳)上での情報発信→通信誌の作成(毎月～隔月で、各職能団体の紹介[自主勉強会の報告等]や市からのお知らせ等を掲載	協議会の取り組みを発信していくことも大事
すべて	すべて	43 情報発信が必要 ★ 課題9	サロン(集いの場)、福祉関係(多目的トイレや認知症サポーターの場所)、移動型スーパーの場所などを一元的に整理し、情報公開を図る。→連絡帳の資源マップを強化する予定があります。 公開された地域資源はGoogle等の一般的な検索エンジンでも検索可能な状態を目指します。(これによって見つけやすさを向上します。) 専門職が案内したい住民の近くのサロンを案内しやすいフローを提供する。 サロンを検索→良さそうなものがあれば印刷して渡す。	デモにて説明があった。
すべて	すべて	44 情報発信が必要 ★ 課題9	上記アイデアを大きく機能で分けると3つ。 1. 情報の登録、収集 2. 情報の公開(Googleでも見つけられるよう工夫) ex「北名古屋市 囲碁 サロン」で検索すると見つけられるような状態を目指す 3. 情報のマッチングと案内 専門職から住民に印刷した案内を渡す。 (4. 訪問後の記録)→開発検討中。  地域資源情報はポータルサイトで一般公開。 専門職によるマッチングや印刷は連絡帳の中の「地域資源」で対応を予定 いずれもレインボーネットの拡張(オプション)で対応	デモにて説明があった。

③高齢者のスマホ指導

	項目1	項目2	地域課題	対策・アイデア	意見・コメント	
③	高齢者のニーズの	情報	5	パソコン・スマホを持っていない・使いこなせない	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは持っている人が使いこなせるような、使い方サロンや教室等の開催</li> <li>持っていない人が情報を得られるよう、最寄りの公共施設内や事業所、包括支援センターなどに誰でも使えるPCやタブレットを配置して使ってみる</li> <li>市内の漫画喫茶などに協力を仰ぎ、高齢者のおでかけ先として活用する</li> </ul>	情報が取れないことが問題・置いてけぼり感 インフラ整備が必要。
	高齢者のニーズの	情報	6		現在では、防災などの観点からも高齢者であってもスマホは必須アイテムであると思われる。役所にドコモやソフトバンクに入ってもらって高齢者に説明してもらう、あるいは集団説明会を開いてもらうこと(販売も)はできないのか。	民間ショップに高齢者が集まってもらおうのもよい。
	社会資源の課題	生活支援	36	スマートフォン タブレットの確認	スマホで買い物ができるようボランティア(サポーター)がアプリの初期設定や操作説明をし自ら購入できるようにする支援 (大阪 NPO法人住まいまもりたい 参照)	ボランティアの課題

④啓発活動強化

	項目1	項目2	地域課題	対策・アイデア	意見・コメント	
④	高齢者のニーズの	その他	8	定年後に参加できる活動や生きがいを見つけられない	定年前に定年後の生活を考える機会になる講演会を開催する。定年後地域貢献できる人材を作る。	
	住民・地域の課題	その他	21	認知症の理解不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で専門職による認知症を学ぶ啓発運動を行う。</li> <li>認知症かな?と思ったら、物忘れ相談医の紹介、相談窓口の紹介を行う。</li> <li>1年1回の健康診断が送られてくる。受診率が低い。その際、75歳以上の方は認知項目を追加して無料検査できるシステム。早期発見に繋げる。</li> <li>各包括で家族会行い、認知症問題行動を聞き出し、経験者や、専門職によるアドバイスで、ストレスためない環境を提案する。</li> <li>薬局で認知症の処方されたら、受け取りに来た人に困り事や飲み忘れがないか聞き出し、必要であれば、自宅訪問助言してもらええるシステム。</li> </ul>	認知症の啓発につながる
	社会資源の課題	医療	27	かかりつけ医がない	今まで健康に過ごしてきた人ほど、かかりつけ医がないと思う。近隣のクリニックの見学会を開催して、施設や医師の雰囲気を知ってもらい、相談しやすい気持ちを持ってもらう	医師会と歯科医師会で検討していく。
	社会資源の課題	医療	28	かかりつけ医がない 精神面のフォローができる相談施設がない	<ul style="list-style-type: none"> <li>かかりつけ医をもてるような支援</li> <li>自治会ごとに健康相談会の開催(健康課と一緒に?) (自分でできる健康管理についての意識を高める)</li> </ul>	
	の支援者		40	定期的に歯科受診していない。	在宅医療・介護関係者に向けた情報発信、勉強会等の開催(オーラルフレイル予防やかかりつけ歯科医を持つことの認識を持つ)	

⑤地域活動の強化(生活支援、ボランティア活動含む)

	項目1	項目2	地域課題	対策・アイデア	意見・コメント
⑤	域住の民課・題地	地域	11 住民同士のつながりが希薄、特に男性は定年後に孤立する。	地域によっては子供の数は増えてきているので、子供会の活動費を補助して年間行事を増やし、住民にも参加してもらおう。秋祭りの子供獅子などは地域の方と触れ合える絶好の機会でした。	商工会などと横のつながりを持つ。
	住民・題地域の課	地域	12 ライフスタイルの変化から近隣住民同士の関係の希薄化、「困った時のお互い様」の関係作りが難しくなっている。	市民を集め、「市民主体による支えあい」に関するワークショップを開催し、自分たちで出来る支えあいの関係づくりを構築していく。	小学校単位でワークショップをやる予定。自治会、民生委員、商工青年部が参加予定。
	域住の民課・題地	地域	13 各地区における無理のない範囲で市民主体による見守り活動が課題。	各支部活動において地域住民主体による見守り活動等の体制を整えられるよう支援をしていく。ただし、各支部長が自身の支部の高齢者に関する地域課題について把握することが難しいため、包括や地域支え合い推進員だけでなく、多職種連携で各地域の課題について支部長も把握できるような体制を整える。	
	社会資源の課題	生活支援	33 介護保険外でのサービス資源がない、担い手不足、シルバー人材センターの活用が有効に行われていない。	なんといっても地域単位として自治会の存在が大きいが、自治会内でボランティアを募り買い物支援にしてもゴミ出しにしても何らかの協力を得られないものか。また自治会に協力を得、自治会費からお祭り以外にも福祉用にも費用を捻出してもらえないものか。また、募金箱を市内各商店や事業所、各団体、公共施設等に設置しボランティア費用を捻出できないか。若いボランティアのなり手がいないとのこと、また地域に埋もれた専門家も多数いると思うが中には地域に貢献したいと思う人もいるはずで自治会単位で探すというのはどうか。(回覧板などで周知、募集)	ヨシヅヤが連携したいと思っている。地域に巡回してもらおう。
	社会資源の課題	生活支援	35 サポートボラ不在地域ボランティアの発掘とマッチング	<課題5> 高齢者サポートセンターによる有償ボランティアの会を作る。他市の成功例を参考にすすめる(寝屋川あいの会 大阪) 既存の団体(PTA自治会・商工会・ファミサポボランティア団体など)をまきこみ人員の確保	ボランティアの課題
	社会資源の課題	生活支援	37 担い手不足	・65歳介護保険被保険者証市役所発行時に、ボランティア協力のチラシ同封、地域で活躍していただける人材発掘登録するシステム作り。75歳時と同様行う。 ・若い子育ての方対象にも、地域でご支援できる人材システム作り。ご自身の空いた時間を近所の人の買い物支援等有効に利用し、マッチングすることで金銭報酬(ワンコイン)になる。	
社会資源の課題	生活支援	38 受診、買い物・サポートボランティアが少ない	地域支え合い推進員と地域資源の把握をする。 ボランティアや有償ボラを発掘し利用者とマッチングする。 鹿田・二子の取り組みを井瀬木・久地野にも立ち上がるように支援する。 「まあいい」の再開を支援する。		

⑥見守りシステム(ゴミ、安否確認含む)

	項目1	項目2	地域課題	対策・アイデア	意見・コメント
⑥	高齢者の	その他	9 片付けできず生活環境が悪化する人のゴミ問題	早めの気づきが大切。(毎日同じ服を着てみたり、ゴミ捨てに来なくなったり、曜日を間違えて出していたりなど)近所の方が声を上げやすい、情報を集めやすいシステム	ゴミ屋敷問題 具体的なゴミ邸も含めて、見守り体制、インフラを使った見守り重要な視点
	住民・地域の課題	制地域	10 【ゴミ問題】 ゴミ出しができない。人手不足。 独居・高齢世帯が多い。	一人暮らしや虚弱高齢者世帯を対象に個別でゴミ収集を行うサービスを作る。 ↓ 安否確認にもなり、生活状況の変化に気づける。 ↓ ゴミ屋敷化が予防できる。	ゴミを念頭に置いたシステムづくり。ゴミ屋敷になってしまった人の支援が難しい。大事のならないようにする  うまく解決した事は？ ・介護事業所がボランティアで実施。ヘルパーの存在が大きい。 ・大家に丸投げし経費は掛かるが家事代行サービス利用。

⑦交通インフラへの提案 ⑧買い物支援

	項目1	項目2	地域課題	対策・アイデア	意見・コメント
⑦	住民・課題・地域の	移動手段	14 軽度者の交通手段(認知症初期集中から)	きたバスの乗降介助 →民生委員さんに手伝いしていただくのは大変良いがはたして可能か？ →ドライバーの方にヘルパー研修を受けていただいで必要時に介助していただくことはできないか？	北バスの乗降介助 →ヘルパー研修を市に検討してもらってはどうか →運航ダイヤがタイトであり対応できないのではない
	住民・課題・地域の課	移動手段	15 交通手段がない	運行ルート、時間が決まった北バスよりも、大阪や春日井のオンデマンドバス方式の方が細かいニーズに応えられる。路面整備より経費がかからない。 バスの乗車予約のためのスマホは、市内の各社スマホ販売店と協力して、スマホを持っていない後期高齢者全てに配布する。今がシニア割で安い時期。スマホの使い方指導は販売店にお任せする。	スマホの共有インフラ整備
⑦⑧	住民・地域の課題	移動手段	16 ★課題4 通院手段がない、買い物に行けない、行きたい場所や時間にバスが運行していない	①若くて元気なうちに外出できる⇒タクシー券の配布年齢の引き下げ、1日や1か月乗車券(北バス・タクシー) ②行きつけの店を作る⇒スーパーマーケットが無料送迎車を出す(一宮市) ③相乗りタクシー(登録した方のみ割り勘できる) *移動は市内限定、独居または昼間独居の高齢者のみ登録できる 上記のアイデアは高齢者だけではなく、障がい者や妊婦、一時的なケガや病気など運転したくてもできない、外出できない方へ向けた全世代への共通サービスと捉えて発想したい！	若い人でも様々な運転できない事情もありよいのではない 交通に関することはまとめて提言が必要ではないか。
	社住高齢者資源域の課題	移動手段	39 【買い物】 買い物移動運転道路が狭く危険	警察・ガソリンスタンド・ディーラー等と共同で安全な自動車運転継続への働きかけを行う。啓発や安全運転講習等 買い物デイ ショッピングセンターにデイを設け、運動と買い物ができるデイを作る。 移動スーパーの周知存在を知らない、利用方法がわからない人が多い。 タクシー券・きたバス券の配布。	交通インフラの課題 周知方法をどうしたらよいか タクシー券の配布を利用になれるため早めてはどうか。早い段階できっかけづくりを。
⑧	住民・課題・地域の	移動手段	17 近隣にスーパーが無い	・生協の利用を勧める	生協は個人宅配が多く、注文していたものが届く。
	社会資源の課題	生活支援	31 買い物デイ(認知症初期集中から)	「デイサービスをショッピングセンター内に設置するところもある」ならばドラッグストアに併設か近隣に立てるのはどうか？ または、デイサービス中に移動販売車がきて必要なものをそろえて帰りに持って帰ってもらう。それも無理ならデイサービス中にネット通販を支援する。などはどうか。	啓発の課題
	社会資源の課題	生活支援	32 買い物ボラ、御用聞き、宅配、スーパーがない、オンライン買い物、買い物代行支援がない、担い手不足	とくし丸を日時を決めて4包括に来てもらい、普段買い物できない方を集めて買い物してもらうのはどうか。きたバスの時間に合わせてきてもらう等。 また、特に買い物難民の方をピックアップしてヨシシヤと相談し、とくし丸をピンポイントで回ってもらえるような日を設けてもらえるよう働きかけてみたらどうか。	買い物システム
	社会資源の課題	生活支援	34 ★★課題5 受診、買い物サポートボランティアがない、御用聞き宅配スーパーがない、利用できていない、オンラインを活用した買い物ができない、	①空き時間バイト(タイマー、ラインバイト、えんじよの) ②生協やショクブンの紹介 ③テレビ電話機の支給(テレビで簡単に受診、買い物ができる) *現状のサービス(郵便局、新聞店、ヤクルト等)がサポート支援できないか？ 上記のアイデアは高齢者だけではなく、障がい者や妊婦、一時的なケガや病気など運転したくてもできない、外出できない方へ向けた全世代への共通サービスと捉えて発想したい！	長野県のえんじよのというマッチングサービス。岩倉のピアゴが買い物デイサービスをやっている。対象は、要支援・事業対象者。 通常業務の隙間時間を使ってもらう。信用のある人の新たなサービスを。
高齢者の課題	情報	7 防災無線が開聞こえない	防災無線の個別受信機の導入の検討はどうか？個別宅への(無償)貸与/独居世帯への全戸配布/公共施設・公共施設に準ずる施設への導入はどうか。また、点滅ライト・デジタル表示などで聴覚障害者への対応も可能ではないか。	防災交通課に確認必要	
社会資源の課題	医療	25 医者	医者だらけ病院だらけの方が大変多い。→オンライン診療が一つの突破口になるのでは？ 包括の方が訪問した時にオンラインはどうか。しかし初診の時は難しいかも医師会としても検討してみます。	医師会でも検討する。	
社会資源の課題	住宅改修	29 住宅	申請前にPT訪問、アドバイスしてもらえる制度が欲しい 住宅環境が適切でない 住民の方になる適切な改修をするために、リハビリテーション連絡会として協議し検討をしていきたい。 この地域に住環境コーディネーターの資格を持った理学療法士がいるとなお良いので、まずは調査を試みたいと思います。	PT連絡会で検討する。	
支援者の課題	専門職の数、	41 専門職	専門職が地域から聞き取りをする時に「本当の地域課題」を見つけて出すためのスキルアップ 生活支援体制構築事業の地域課題の発見に関する研修を受講する。 例 「全国コミュニティーライフサポートセンター」が開催している研修等。	課題なのか要望なのかわからない。理解する。	